

2026年3月5日議決

2026年度事業計画書

(2026年4月1日～2027年3月31日)

公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会

[公益目的事業 1]

高等学校における文芸教育振興のための助成

第61回 高校生のための文化講演会

予算 4,556 万円

作家、評論家、研究者など様々な分野で活躍中の方々を講師として、全国の高校生を対象に講演会を実施します。成長過程にある高校生に読書の魅力や学ぶ喜びを伝え、未来の指針を考える契機となることを企図して毎年実施しています。過去累計で開催校は全国4,509校、聴講生徒数は373万人に上ります。

2025年度も、すべて現地開催にて実施。聴講した生徒たちから、先生の話に共感した、また将来の目標や夢について考えたという感想がたくさん届き、講演の訴求力、感動を与える力の強さを高く評価されているものと認識しています。

今年度は全国30行程の開催を予定しています。昨年も全国各地で猛暑が続き、冷房のない体育館での実施が困難なケースもありました。今年度も6月末・9月初旬の暑さの厳しい時期を避けて開催期間の設定や冷房のある教室での開催など、臨機応変に進めていきます。現在、30名の講師が決定し、今後、各新聞社による学校選定、日程調整をすすめていきます。

●実施概要

企画名	第61回 高校生のための文化講演会
主催	公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会、各都道府県新聞社 37社
後援	文部科学省(予定)、都道府県教育委員会(予定)、集英社 ほか
期間	前期:2026年5月18日(月)～6月19日(金) 後期:2026年9月7日(月)～9月30日(水)
会場	各都道府県の高等学校
講師	作家、評論家、研究者、ジャーナリストなど様々な分野で活躍する著名な方々 (村山由佳氏、鎌田實氏、森田真生氏、鴻巣友季子氏、コウケンテツ氏、角幡唯介氏ほか 計30名予定)
図書寄贈	集英社文庫 100冊セット、集英社国語辞典、講師著書
配布物	小冊子『読書への招待 2026』、講師紹介チラシ

[公益目的事業 2]

高等学校及び高等学校生徒を対象とする創作活動に対する顕彰、助成

第46回 全国高校生読書体験記コンクール 予算 2,741 万円

「読書体験記コンクール」は、高校生がこれまでに読んで特に心に残った本、大切にしている本を取り上げ、どんな状況でどう読んだか、どのような影響を受けたかといった“体験”を書くことによって、読書が自らの人間形成にどれほど重要なものであるかに気づいてもらうために企画した事業です。

2025年度「第45回 全国高校生読書体験記コンクール」では、全国414校から55,961編の応募がありました。表彰式は2026年1月26日に東京ドームホテルにて行いました。

参加校・応募作品数ともに漸減していることに鑑み、2年前からフリースクールや定時制・通信制高校にも応募要項の送付をはじめたところ、数校ではありますが応募がありました。参加学校数も全体でプラス15校となりました。本年もひとりでも多くの高校生に参加していただけるよう、告知、発表などにも工夫をこらして事業の一層の充実を図ります。

●実施概要

企画名	第46回 全国高校生読書体験記コンクール
主催	公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会
後援	文部科学省、全国都道府県教育長協議会、 全国高等学校長協会(以上予定)、 集英社、各新聞社(36社) 他
告知	2026年6月応募要項一式を全国の高校、フリースクール、 定時制・通信制高校など、約7,000校に送付
応募締切	2026年9月24日 必着
都道府県選考	2026年9月25日～10月中旬
中央選考会	2026年12月上旬
中央入賞発表	2026年12月中旬(中央入賞者へ通知、各新聞社には書面にて 通知)
表彰式・懇親会	2027年1月下旬

●中央選考委員(予定・敬称略)

辻原 登 (作家)

穂村 弘 (歌人)

角田光代 (作家)

文部科学省初等中等教育局主任視学官

全国高等学校長協会

●選考方法

都道府県別選考会で入選作 5 編(優良賞 1 編・入選 4 編)を選出し、各都道府県の優良賞 47 編の中から、中央選考会において中央入賞 8 編*を決定する。

※文部科学大臣賞 1 名、全国高等学校長協会賞 2 名、一ツ橋文芸教育振興会賞 5 名

●賞

中央入賞 8 名	
文部科学大臣賞 1 名	賞状・楯・記念品
全国高等学校長協会賞 2 名	賞状・楯・記念品
一ツ橋文芸教育振興会賞 5 名	賞状・楯・記念品
優良賞 39 名	賞状・記念品
入選 188 名	賞状・記念品

●学校賞

中央入賞者在学校	楯・集英社文庫 100 冊セット
優良賞入賞者在学校	集英社文庫 50 冊セット
入選者在学校	集英社国語辞典

[公益目的事業 3]

青少年の健全な育成に関する調査研究、実践活動を行っている団体、及び個人を後援、助成

①「中国高校生日本語作文コンクール」への協賛・助成 予算 300 万円

「中国高校生日本語作文コンクール」は、「一般財団法人 日本児童教育振興財団」内の「日本青少年研究所」が主催する事業で、中華人民共和国で日本語を学ぶ高校生たちが日本語で綴った作文を顕彰するものです。2015 年度から助成を開始しており、一等賞受賞者のうち 20 名に一ツ橋文芸教育振興会賞を授与するなど、今年度も引き続き協賛・助成をいたします。

本年の表彰式は 6 月にオンラインでの実施予定。最優秀賞に選抜された 10 名が秋に来日して日本文化を体験し、日本の高校生と交流します。

●実施概要

企画名	第30回 中国高校生日本語作文コンクール
主 催	一般財団法人日本児童教育振興財団 内 日本青少年研究所
共 催	中国青少年研究中心
協 賛	日本加除出版 株式会社 公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会 東京上野ロータリークラブ
審査会	2026 年 4 月 予定 (一等賞 50 名、二等賞 50 名を決定)。
表彰式	2026年6月 オンラインにて開催予定 一等賞受賞者50名が参加 最優秀賞10名を訪日研修の代表とする
日本訪問	秋に実施予定

② 全国高等学校国語教育研究連合会への協賛・助成

予算 236 万円

全国高等学校国語教育研究連合会（略称：全国連）と、その傘下の地方組織である高等学校の国語科教師の研究会（国語部会）が催す講演会に、要請により講師を派遣する事業です。講演料の一部、および講師・随行者の交通費・宿泊費等の費用を助成します。

今年度は3～4団体程度への助成を予定しています。

③ 全国高等学校文化連盟への協賛・助成

予算 444 万円

公益社団法人全国高等学校文化連盟（略称：全国高文連）が実施する中央・地方の高等学校文芸コンクールを中心に、同連盟の図書専門部門、文芸専門部会などによる読書推進活動への協賛・助成です。

講演会への講師派遣、講演料の助成に加え、2007年度より全国高等学校文芸コンクールに協賛。文芸部誌部門の最優秀賞に副賞（集英社文庫50冊セット）を、優秀賞に「一ツ橋文芸教育振興会賞」として賞状と副賞（同50冊セット）を贈呈しています。また本年も、文学、学術、思想、芸術など様々なジャンルから、良質な議論や情報を取り上げ紹介する新聞「週刊読書人」を買い上げ、全国158校の高等学校国語担当主任教諭に送付する予定です。

④ 「ノベル大賞」への協賛・助成

予算 200 万円

新人作家の発掘・育成を目的とした「ノベル大賞」は、株式会社集英社と共催する公募文学賞で、若手作家の登龍門の一つとなっています。これまでに、氷室冴子氏、唯川恵氏、山本文緒氏、谷瑞恵氏、須賀しのぶ氏ら第一線で活躍する作家を輩出してきた文学賞です。2025年度の大賞は『四人のナオちゃん』松本愛世氏、『佐藤の告白』藤紘氏の2名が受賞しました。

当財団主催の「読書体験記コンクール」応募要項の配布に合わせ、ノベル大賞ポスターも全国の高校に配布するなど、今年度も引き続き協賛・助成いたします。

●2026年ノベル大賞 選考委員（敬称略・五十音順）

今野緒雪(作家) 似鳥 鶏(作家) 三浦しをん(作家) 丑尾健太郎(脚本家)

⑤ 「聞き書き甲子園」への協賛・助成

予算 50 万円

本年度で25回目を迎える「聞き書き甲子園」は、農林水産省、文部科学省、環境省、公益社団法人国土緑化推進機構、NPO法人共存の森ネットワーク、NPO法人地球緑化センターが主催する事業です。全国の高校生が各地の森・川・海の職人を訪ね、その職業や生活について聞き書きすることにより、先達の生きる姿勢や自らの将来について学び、考える機会を創設します。

活動資金の助成するほか、応募関連資料を「高校生のための読書体験記コンクール」の応募要項と同梱し、全国の高校に配布するなど、本年度も協賛・助成いたします。

⑥ 災害罹災校への支援・助成

予算 150 万円

近年、各地で台風・増水・地震などの被害が増えています。自然災害により甚大な被害を被った地域の高等学校に、各地方新聞社を通じて義援金をお渡しします。

2025年度は、病気や災害等で経済的に就学が難しい遺児家庭への支援として、あしなが育英会に寄付をいたしました。

今年度も引き続き、自然災害等の発生で罹災した高等学校に対して支援、援助活動を行います。

法人会計

予算 932 万円

以上